

# 学園創立

## 女性の体育は女性の手で

英国で学んでトクヨの体育観は大きく変化しました。体育は「有為なる精神を宿すべき有為なる体をつくるためのもの」とし、体育を人間教育全体のなかに位置づけた。しかし、このような新しい女子体育に対する抱負も情熱も、十分に発揮する機会はなかなか訪れなかった。

1922年(大正11年)4月、41歳のとき「私がやらねば」と意を決し、女高師教授を辞任。自分の理想とする体育の教育を目指し、トクヨは学校を創立する決心をした。かつてトクヨは校長であるオスターバークに「あなたが日本に帰ったら、ここキングスフィールドに因みをもったクイーンズフィールドを建てられるように祈ります。それには及ばずながら尽力しましょう。」と冗談まじりで常に言われていた。日本での姉妹校設立は、マダム期の期待の実現でもあった。

トクヨは1921年(大正10年)5月から、雑誌『わがちから』を出版して、体育に関する自分の考え、女子体育の研究と教員養成の必要を世に訴えた。創立のための資金調達に苦慮していたトクヨであったが、体操女教員協議会(全国体操女教師120名の組織。のちに体育婦同志会と改称、トクヨはその会長であった)の寄付金とトクヨの私財も合わせての資金で何とか開塾までこぎつけることができた。



安井てつ(1870—1945)  
トクヨを物心両面で支援した東京女子大学長



中川謙二郎(1850—1928)  
トクヨが終生父とも師とも仰いだ女高師校長



チュニツク姿の学生達に囲まれるトクヨ

### 展示品リスト

- ・書類「日本女子体育専門学校学則」
- ・書類「日本女子体育専門学校沿革」
- ・書類「入学資格の説明」
- ・書類「奮起せよ！日本女選手」
- ・冊子「昭和2年 日本女子体育専門学校 教授要目」
- ・二階堂トクヨ個人雑誌「わがちから」第7号～51号

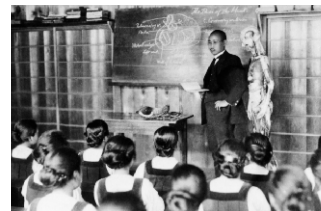
- ・チュニツク
- ・日本女子体育専門学校校旗
- ・「校旗の由来」(トクヨ直筆)
- ・体操塾卒業証書 見本
- ・日本女子体育専門学校卒業証書「昭和10年」
- ・教員免許状「昭和9年」「昭和17年」
- ・書類各種

## 理想の教育

塾の創立時から生理学・衛生学・解剖学・国語・英語・音楽・心理・倫理など、広範な領域が教育に組み込まれていた。学科と同時に塾生の日常的な「整容」にも心が配られた。トクヨの心の中にある「女らしい教育」とは、男性と対等であり平等である「女性」のための教育でもあった。トクヨの目指すところは学校教育だけでなく、家庭教育や社会教育までを視野に入れた女子教育にあった。それが、英国で眼にし体験した寄宿舎での全人教育であった。トクヨは教育と生活の場の一体化を教育方針として全寮制とした。

トクヨは英国での体験をもとにチュニツクを二階堂体操塾の制服と定め、それ以来長い間、チュニツクは「二階堂」の象徴となった。

— 体操塾の授業風景 —



生理学(林 良斎)



英語(宮本 鉄之助)



音楽(豊田夫人)



整容研究(山本 久栄)